

ゲスト : Mr. Mathew Allen Sawyer-Long

(U.S.A)

テーマ : Life in a box

馴染みのマットさん登場です。

いつもは

- 自身作成の資料(紙)を使い、
- マイク無し、
- 縦横に動くスタイルでしたね、

< 前回(14回)までの記録を再確認しました。 >

今回は、今までとは異なったものでした。

- パソコンを使い
- 資料をプロジェクターに写し
- マスクをして
- 動く事無く、マイクを使って語る。



何故か？

全ては、2020年初めからCOVID-19(新型コロナウイルス)の世界的な流行のせいです。

- Social distance (このような英語は聞いた事はありませんでした)
- Stay home

の掛け声と共にこの一年で、生活のスタイルが、すっかり変わってしまいました。

- 買い物に出かける代わりに配達してもらう。
- 会っても握手やハグもなく、距離(約2m)を置く。
- 人に会う事なく仕事をする(Zoom等を使って)。 等々

このような状況をハッピーだというアメリカ在住の友人もいます。

このような生活スタイルは広い所に居たとしても寂しいもので、私には合いません。

私は正反対の人間で、人々に会い、話をして、触れ合うのが好きなのです。

そういった中、今日のテーマは

< Life in a box >

< Box >とは、”箱”

辞書で調べてみると”小屋”とも載っています。

箱のイメージは”物を格納する入れ物(頻繁には出し入れしない)”ではありませんか？

< Stay Home >の掛け声と共に、今や家は人間を格納する< Box >に化してしまったようでスピーチを聞きながら、Box ⇒ Home(House) とイメージしました。

さて、マットさんは、

- |     |             |                          |
|-----|-------------|--------------------------|
| 第1部 | : 人里離れた暮らし  | Living secluded.         |
| 第2部 | : 離れて暮らす    | Living apart.            |
| 第3部 | : こじんまりと暮らす | Living small.            |
| 第4部 | : 移動して暮らす   | Living mobile.           |
| 第5部 | : 惨事の暮らし    | Living through disaster. |

の様に分類して、様々なBox(家)を紹介してくれました。

## 第1部 : 人里離れた暮らし ( Living secluded )

樽で暮らす人 (背景には街が見える)



正しく人里離れた所に在る！  
暮らすには厳しい所にどうして？  
何故に？

チベット仏教の聖地 (ブータン「タクツァン僧院」)



厳しい修行が行われる寺院

標高 3000m

キゴンパ (インド・スピティ谷)



Amishの暮らし



電気無し (文明の利器) 避けての生活

Amishの暮らし



第2部 : 離れて暮らす

Alcatraz prison ( San Francisco )



Living apart.

刑務所内・独居



Bedlam (Bethlem Royal Hospital)



精神障害者保護施設



San Quentin(California State Prison)

第3部 : こじんまりと暮らす

Living Small.



夫婦だけの空間



夫婦・幼い子供・犬だけの空間



## 第4部 : 移動して暮らす



## Living Mobile.

退職した人達の中には、  
このような大型で立派な設備を持った、  
動く家で、各地を巡る暮らしを楽しみます。



## 第5部 : 惨事の暮らし



↑ 学校の体育館



↑ 災害後に建設された仮設住宅

↓ 地底に閉じ込められた男達



地底で生き抜いた33名の男達は、



この小さな籠で救出されました。

## Living through disaster.

津波に襲われた福島での避難生活。

ニュースでこのような写真を

沢山見た事を憶えています。

プライバシーを保つために壁を造っています

被災者用に建設された住宅。

一時的な生活空間として建設されたが、

未だにここで生活している人達があります。

数年前に大きなニュースとなりました。

深い地底に閉じ込められた33名の男達。

<コピアポ鉱山落盤事故(チリ)>

どうやって生き抜いたのでしょうか？

深い地底に閉じ込められても、

救出を待つ間、

リーダーの指揮の下で、身体を動かし、

日常の活動して、生き抜いたのです。

三月、全て（店、施設）が閉まりました。

四月には、大変な事態に。

こういった事から、

五月にはマットさんは変わる必要を感じて生活を見直しました。

- ① 朝、目を覚まし、朝ご飯を食べ、何でもいいから、何かを書く。
- ② e-mailをする。（どのメールへも直ぐ返信する）
- ③ 3つの食材を使って昼ご飯を作る。
- ④ 部屋を掃除する。
- ⑤ 家族を連れて外に行き、心を込めて運動をする。 等々

他に

スウェーデン語の勉強を始めました。

何故にスウェーデン語だって？ ⇒ たっぷり時間があるから ！

一年程前に、私の英語クラスの生徒が俳句（英語版）を本をくれました。  
と言うわけで、日本語での俳句も勉強しています。

要は、

忙しい状態を保つのです。

そうしなくては、<うつ病>になってしまう。

前向きで、活動的な、マット・ファミリーに幸いあれ ！